

三小だより 3月号



教育目標 「力たくましく 確かな学力を身につけた 心豊かな子どもの育成」

学校・家庭アンケートより

校長 岡村崇弘

平昌五輪が閉幕しましたが、今回の五輪では兄弟姉妹の活躍も話題になりました。特に注目を集めたのがスケートの高木姉妹。今大会、笑顔で表彰台に立ち、肩を組み合う姿が見られましたが、ここにたどり着くまでにはいろいろな心の葛藤もあったとか。8年前、五輪に出場し、注目を浴びた妹に嫉妬し、レースを見ながら心の中では「転んでしまえ」と思ったという姉。4年前の五輪では姉が代表になり、落選した妹は、応援に行かず、テレビ画面で姉を見つめていたとのこと。兄弟姉妹を育てていくことの大変さを思うとともに、私たちも一人ひとりの子どもを無二の存在として、しっかり見ていかねばならないということを改めて思いました。

さて、過日実施いたしました学校・家庭アンケートへのご協力ありがとうございました。その結果について、特徴的なことをお伝えいたします(裏面に全結果を掲載しています)。

保護者分では、「読書時間や読書量」以外の項目で、「よくあてはまる・ややあてはまる」という肯定的回答がほぼ9割を超えました。1、2年生の児童分でも、ほぼすべての項目で肯定的回答が9割を超えるとともに、ほとんどの項目で前年度を上回る結果となりました。また、3～6年生の児童分では、肯定的回答がほぼ9割を超えた項目もたくさんありました。ただ、前年度を下回る結果になった項目もいくつかあります。以下、もう少し現時点での成果や課題を考えたいと思います。

保護者の「授業は落ち着いた雰囲気である」や児童の「先生は分かりやすく教えてくれる」の結果から分かるように授業は概ね落ち着いています。ただ、3～6年生では「学校の勉強が楽しい」「自分の考えをまとめたり、発表したりする」「先生に質問しやすい」などの項目で8割程度に留まっていることから、児童の学習意欲や関心がさらに高まるような授業改善や創意工夫が必要と考えています。

「学校が楽しい」や「友達がたくさんいる」「いじめはない」という項目でも良好な結果が出ています。「先生は自分をよく見て、頑張りを認めてくれる」と感じている児童が9割を超えたことから、自己有用感を持つ児童が増え、学校が安全・安心な場所になってきていると思われます。ただ、少人数ですが、これらの項目に否定的な回答をしている児童もいます。丁寧な観察を行い、子どもの気持ちに寄り添った指導をしていきます。



「読書時間や読書量」が前年を下回る結果になっています。学校として、読書の楽しさや必要性を伝え、読書習慣をつけていくための方策を工夫しなければならないと感じています。ご家庭でも「読書」のことを話題にしたり、親子で一緒に本を読む時間をとっていただけるとありがたいです。

いよいよ3月、現学年の仕上げの時期です。一人ひとりが、自分を見つめ直し、今できること、今しなければならないことをしっかりと考え、実行し、新学年につながる毎日にしてほしいと思います。